



①ヤマグリ200本、ヤマザクラ400本を植えた ②ボランティアスタッフが植え方を優しく指導 ③笑顔で植樹する児童 ④2人1組で丁寧に植えていく ⑤植えた後は班ごとに記念撮影 ⑥指導してくれたボランティアスタッフにお礼の言葉 ⑦森林教室では植樹した木や森林の役割などについて学習した ⑧真剣な表情でメモを取る

10月11日、錦町の羅漢山県立自然公園内で、岩国市水源の森植樹祭が開催されました。雨水を蓄え、河川の流量を調整するなどの機能を持つ森林の大切さを学んでもらおうと、毎年市内の小学生を対象に開催しているものです。今年は5校155人の児童が参加し、広葉樹の植樹と森林についての学習を行いました。バスで現地に集合した児童は、ボランティアスタッフの指導の下、山の斜面にヤマグリとヤマ

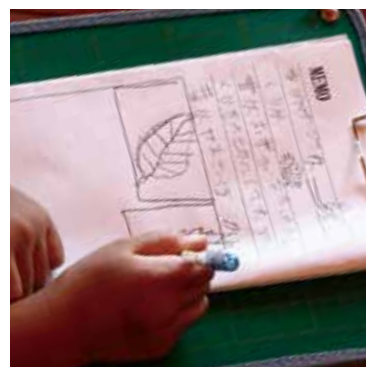
岩国市水源の森植樹祭

ザクラの苗木計600本を、協力しながら丁寧に植えていきました。その後、らん高原交流センターに移動し、森林が果たしているさまざまな役割について学習を行い、水源かん養や地球温暖化問題などについて理解を深めました。この事業は岩国市水源かん養基金を活用して平成20年度から行っており、今年で10回目の開催となります。

環境保全課 ☎ 51100

森の役割を楽しみながら学ぶ

市政 PICK-UP



花で暮らしにうるおいを

10月4日、シンフォニア岩国
で華道家の假屋崎省吾氏を講師
に「花育ワークシヨップ」と題
して、フラワーアレンジメント
教室が行われました。

山口県と県内各自治体などが
連携して来年9月に開催する、
全国都市緑化フェア「山口ゆめ
花博」のプレイベントとして開
催されたもので、家の中でも手
軽に花を楽しんでもらおうと企
画されました。
教室ではピンク色のカーネー



▲切り花で形を作り、簡単にクマの顔の花飾りを作る方法を紹介する假屋崎氏

花育ワークショップ

シヨンを使ったクマの顔作りに、
31組62人の親子連れが挑戦しま
した。假屋崎氏の指導の下、子
供たちは一本一本丁寧に花を鉢
に挿していき、かわいらしいク
マの顔を完成させました。

山口ゆめ花博は来年9月14日
から11月4日まで山口市の山口
きらら博記念公園で開催される
ことになっており、花・緑・公
園の新しい魅力を楽しむことが
できます。

関公園みどり課 ☎295162



▲参加者は楽しみながらそれぞれ個性のあるクマの花飾りを完成させた

未来の科学者を目指して



▲発表者は緊張しながらも、大きな声でしっかりと研究の成果を発表した



▲前年と同じテーマを掘り下げたり、そこから派生したものに視点を当てたり、長期的な研究も見られた

10月5日、岩国市役所で平成
29年度岩国市・和木町科学振興
研究発表会が開催されました。
市内と和木町内の小・中学生
が、自らが行った科学的な研究
を発表する場で、今年は6組7
人の小学生と8組9人の中学生
が発表を行いました。
発表内容は、植物や動物、物
質の性質など多くの分野にわた
り、発表者は決められた持ち時
間の中で、グラフや模型、写真、
動画などを使い、それぞれ工夫
を凝らした発表を行いました。

岩国市・和木町 科学振興研究発表会

審査員からの質問に困ってし
まう児童もいましたが、事象に
対し仮説を立て、反復した実験
や長期間の観察に基づき考察す
る、といった研究の基本にのっ
とったレベルの高い発表も行わ
れ、審査員から賞賛や今後への
期待の言葉が述べられました。
審査の結果、代表に選ばれた
小・中学生1組ずつは、11月7
日に山口市で開催されるサイエ
ンス山口2017に出場し発表
を行います。
関科学センター ☎220122